

学習者の関心と学びの広がりを支援して

国際交流基金パリ日本文化会館
石川 芽生

私は、2024 年 8 月から、パリ日本文化会館（以下、MCJP）で指導助手として業務を行っています。MCJP は、国際交流基金の海外最大規模の拠点として、日本文化にかかわる展示、舞台、映画、講演など多くの事業が常時展開されており、それに並ぶ 1 つの事業として日本語事業があります。

指導助手の業務

MCJP の日本語事業は、「アドバイザー事業」と「講座事業」に大きく分かれています。主に、アドバイザー事業は、フランスを中心とする日本語教師の支援や教材制作、教育機関訪問、中等教育支援など、講座事業は、日本語講座の授業、一般学習者向け日本語イベントの運営などを行っています。パリの指導助手は、両方の事業に広く携わることができるのが大きな魅力だと感じています。

本レポートでは、その中でも講座事業についていくつかの活動をご紹介します。

日本語会話サロン「しゃべろん」

MCJP では、学習者が授業で学んだ日本語を教室外の実際の場面で使うことを目的に「しゃべろん」という会話イベントを定期的で開催しています。しゃべろんの特徴の 1 つは、さまざまなテーマと形式で開催している点です。2024 年 9 月から 2026 年 5 月現在まで、テーマを設けて日本語母語話者といっしょに会話する「オンラインしゃべろん」を月 1 回ほどのペースで開催したほか、話しながらパリの街を散歩する「お散歩しゃべろん」、MCJP で開催されている映画や展示をテーマにグループディスカッションを行う「MCJP でしゃべろん」など、いろいろなしゃべろんを行いました。指導助手は主に、専門家と講座調整員とともに各しゃべろんのテーマを企画し、当日の進行を担当しています。

「オンラインしゃべろん」は、当初は会館の講座受講生を対象とするイベントでしたが、2025 年からは対象を一般の学習者にも広げてオープンなイベントとして実施しています。最近では、毎回 30 名ほどの学習者が参加していますが、8 割ほどが一般の学習者で、月 1 回の開催を楽しみにしてくれているリピーターが多いのも特徴です。「ふるさとの味」「外国語勉強法」「夏の思い出」など、さまざまなテーマを用意しています。講座受講生にとっても、日本語母語話者だけではなく、教室では出会えない様々な日本語学習者と話せることが刺激になっているようです。



2026 年 2 月のオンラインしゃべろん

また、会館で行われている展示や映画を活用した「MCJP でしゃべろん」も、多様な事業が常時展開されている拠点だからこそチャレンジできる特徴的なイベントだと思います。2024 年 11 月の「ゴジラを見てみよう！」では、ゴジラ 70 周年を記念し会館で行われていた映画特集を活用し、作品の背景にある社会問題や日本文化への気づきを促すクイズやディスカッションを行った後に映画を鑑賞しました。また、2025 年 6 月の「アイヌ文化を知ろう！」では、アイヌの生活や言語に関するクイズや体験活動を日本語で行いました。希望者は、活動の前後で、アイヌの生活に関する映画や、アイヌ楽器を使ったコンサートを鑑賞しました。



2025 年 6 月 MCJP でしゃべろん「アイヌ文化を知ろう！」

このように、日本語でのディスカッションやクイズと、作品の鑑賞を組み合わせることで、より深い文化体験や日本語学習のモチベーションにつながることを目指しています。MCJP で日本語を勉強している講座受講生は、それぞれ、日本文化に対して関心を持っている分野が違うので、イベントのテーマによって参加する受講生が少しずつ変化するのも興味深いです。いろいろなテーマについて調べ、活動を準備するのは難しいことも多いですが、学習者が日本語で自分の興味関心について意見交換をしたり、新しい発見をしたりしている様子を見ると、とてもやりがいを感じます。

日本語体験アトリエ「旅行の日本語」

日本語学習者向けの講座やイベントに加え、日本語未習者向けの日本語体験アトリエを実施することもあります。2026 年 3 月には、日本語体験アトリエ「旅行の日本語 : l'atelier-découverte : Le japonais en voyage」を開催しました。



日本語体験アトリエ「旅行の日本語」

このアトリエは、「日本旅行の予定があるけど日本語は勉強したことがない」というフランスの方を対象に、90分×3日間のコースで企画しました。アトリエのテーマは、1日目「飲食店で」、2日目「街で」、3日目「観光地で」。各日のテーマごとに「ラーメン屋で注文できる」「日本旅行で行きたい場所、したいことを計画して話すことができる」「お土産屋でサイズや他の色を確認して買える」など、具体的な Can-do を設定し、教材や練習を準備しました。

限られた日程で、たくさんの実践練習を繰り返す集中的な内容だったので、参加者のニーズやモチベーションと合っているか開講前は不安がありました。しかし、参加者のみなさんは、初めての日本語体験に熱中している様子で、家で自主的に勉強している方もいるほどで、とても活気のある3日間になりました。

参加者からは、「8週間の日本旅行中、皆さんのことを思い出すと思う」「このアトリエのおかげで、日本語学習を続けるモチベーションになった」という嬉しい声をいただきました。

1年8か月を振り返って

パリでの指導助手としての任期も残すところ数か月となりました。この任期中、MCJP 日本語事業部のメンバーを中心に多くの方のお力を借りながら、様々な事業に携わるチャンスをいただきました。そして、本当に多様なモチベーションや興味関心をもつ日本語学習者に出会い、その興味が日本語の学習を通してさらに深められていく瞬間を、目の前で見ることができたと感じています。残る任期も、フランスの学習者のためにできることを考えて試行錯誤しながら、1つ1つの活動をしていきたいと思えます。

以上